



赤ハゲ論

同友会運動は「緑化事業」

もう一つは「赤ハゲ論」と呼ばれていたが大企業の海外シフトが進み、日本列島の至る所に空洞化現象が起きていることを、山の木々が伐採され赤土が見えている禿山に例え、同友会運動はこの赤ハゲ部分に一本ずつ木を植えていくことだと表現した。山の赤ハゲを放っておけば、植生が破壊され荒れ果ててしまうが、それは地域社会においても同じこと。赤ハゲ部分に木を植え、その木は大地に根を張り、葉を広げ、花を咲かせて実をつけていく。この地道な作業をしない限り、山が再び緑に覆われることはない。仕事と雇用を増やし、安定した暮らしを守ることは中小企業に課せられた大企業であり、社会的、歴史的使命である。まさに同友会運動は禿山に一本ずつ木を植え、育てていく「緑化事業」である。筆者の解釈を文章にしているため、赤石氏やパネリストが伝えたかったことと完全に一致しているかどうかは分からないが、非常に腑に落ちた話だった。

経営者でありながら、哲学者

そして、「赤石氏は経営者でありながら、哲学者でもある」という発言には、同氏の著書を読んだことがある人なら誰しも納得しただろう。実際、「あかいし文庫」の書籍目録の分類を見ると、霊長類、人類、文明、哲学、思想、科学：等から始まり、経営や経済に留まらず、知の探求は底知れない。



赤石イズムが力強く流れる

宮崎同友会

あらゆる角度から同友会の歴史と理念を語ったパネリストの話聞いた後、参加者全員でグループ討論を行った。ある人は、「赤石さんが何度も宮崎に来て教えてくれたおかげで、宮崎同友会のレベルは（他県同友会に比べて）高い」と言った。確かに、宮崎同友会における運動の根幹には、赤石イズムが力強く流れている。二〇一八年に発表した「Vision 30th」も、その宮崎同友会だからこその作り上げることができたと言えるだろう。しかし、レベル（？）が高いというのは大いに疑問であり、まだまだ自身の学びのための「活動」の域を出ていない人が大半を占めるのが現実だ。

大切なのは 一歩目を踏み出すこと

「赤石さんの書いた本は難しい」という声も上がった。確かに、同氏の著書は奥が深く、壮大で、ある部分ではとても崇高とさえ感じる。経営の道は果てしなく遠く険しいと感じて物怖じする人もいるかもしれない。しかし、だからこそ一歩目を踏み出すことが大切だ。そして同友会では、その難しい内容の解釈を巡って議論を交わしたり、互いの経営実践を点検し合える仲間がいる。



最後に、まとめとしてコーディネーターの国吉氏は「ことあるごとに赤石さんの著作を読み返し、赤石さんが紐解いた文献にも学びながら同友会運動の発展に力を尽していきたいましよう」と投げかけ、「中同協設立50周年、5万名会員達成をやりあげることが天より見守る赤石さんの期待に応えることになるのではないのでしょうか」と締めくくった。

時代と向き合い、どんな未来を創っていくのか

現在、日本の中小企業や地域経済を取り巻く環境は、人類史にない程の激動の時代である。ますます不安定な世界情勢、急速なグローバル化やアジア諸国の台頭に見られるパワーバランスの変化、次々に起こる技術革新。何より深刻な人口減少、避けられない超高齢化社会、それに伴う縮小経済。中小企業経営者にとって危機的な状況であるともとれるが、同時に何が必要なのか明確になってきた時代でもある。時代と向き合い、どんな未来を創っていくのか。赤石氏が伝えたかったことを折に触れ振り返り、「地域のインフラ」となるべく学び続けていかねばならない。



文・構成・撮影



竹原 英男
TNAソリューションデザイン株式会社 代表取締役
宮崎北支部・理事・増強本部長・組織強化連絡会議委員・産学官民連携部会 MANGO 会長（兼担当理事）・広報委員会担当理事・青年部設立準備会担当理事

本資料は同友会の会員がゲストや非会員を訪問したり、入会や例会参加をお誘いする際に活用していただくために試験的に増強本部が発行しています。PDF ファイルをダウンロードできますので、印刷する等としてご活用ください。

